

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	21-076	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Factors associated with alcohol and tobacco consumption as a coping strategy to deal with the coronavirus disease (COVID-19) pandemic and lockdown in Spain</p> <p>スペインにおけるコロナウイルス感染症 (COVID-19) の大流行とロックダウンに対するアルコールとタバコの消費に関する要因について</p>		
執筆者		
Martínez-Cao C, de la Fuente-Tomás L, Menéndez-Miranda I, Velasco Á, Zurrón-Madera P, García-Álvarez L, Sáiz PA, Garcia-Portilla MP, Bobes J		
掲載誌		
Addictive Behaviors, 2021 Oct;121:107003. Doi: 10.1016/j.addbeh.2021.107003.		
キーワード		PMID
アルコール COVID-19 タバコ 心理的影響 コーピング方法		34111653
要 旨		
<p>目的: COVID-19 大流行初期時点でのスペイン国内一般集団における、アルコール、タバコ、またはその両方が消費されることに関連した社会人口統計学のおよび臨床的な危険因子、保護因子の特徴を明らかにする。</p> <p>方法: オンラインでの紹介法 (snowball sampling) を用いた調査を実施した。調査には、臨床的および社会人口統計学的情報とスペイン語版の Depression, Anxiety, and Stress Scale (DASS-21) および Impact of Event Scale (IES) からなるアドホックな質問票を使用した。</p> <p>結果: 対象者は 21,207 人 [平均年齢=39.7 歳 (SD : 14.0 歳)、女性 14,768 人 (69.6%)] だった。対象のうち 2,867 人 (13.5%) がアルコール、2,545 人 (12%) がタバコ、1,384 人 (6.5%) が両方を、COVID-19 の大流行にともない使用したと回答した。性別因子は、アルコール摂取と関連していた [女性、OR = 0.600、p<0.001]。しかし、教育レベルや仕事の状況、所得は、タバコとアルコールとで関連が異なっていた。精神障害をもっていることは、COVID-19 大流行に対するタバコの消費とのみ関連していた [OR = 1.391、p < 0.001]。</p> <p>結論: COVID-19 の大流行やロックダウンに対して、アルコール、タバコ、またはその両方が消費されることには、社会人口統計学的、臨床的、心理学的要因が関連していた。この知見は、性差を反映した具体的な介入プログラムの開発に役立ち、パンデミック後のこれらの嗜好品の使用による長期的な悪影響を最小限に抑えられる可能性がある。</p>		